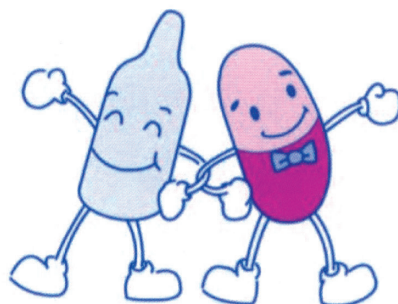


抗がん剤について

Q1.がん細胞とは…

がん細胞とは、本来、臓器のなかで秩序を守って増殖していく細胞が、突然、無秩序にどんどん細胞分裂して数が増え臓器のはたらきを低下させ、他の臓器に悪影響を及ぼすような細胞のことです。私たちの体は、このがん細胞を異物とみなして攻撃する働きをもっていますが、この攻撃に打ち勝ったがん細胞が体の中でどんどん増えていくとがんとして発病するのです。



Q2.がん治療とは…

がん治療の主なものとして、手術などの外科療法、放射線療法、抗がん剤を使う化学療法があります。そのほかにも、ホルモン療法、免疫療法があります。治療は患者さまのがんの部位や種類、進行度、年齢、体力、他の疾患の有無などにより検討され、それぞれの人にあった方法で行われます。

Q3.なぜ副作用はおこるのか…

薬の代名詞として両刃の剣（もろはのつるぎ）という言葉はよく使われます。なぜなら、薬には、期待される効果と、体に有害な作用とがあるからです。抗がん剤ほどこの“両刃の剣”という表現がぴったりあう薬はありません。

抗がん剤は、期待される効果として、がん細胞を攻撃する一方、正常な細胞も攻撃します。

では、どのような細胞が影響を受けやすいのでしょうか？

それは、骨髓細胞のような一般に寿命が短く細胞分裂が盛んな細胞です。

副作用の現れかたは、抗がん剤の種類、抗がん剤の量、抗がん剤の併用方法の違い、また、患者さま自身の状態によって異なってきます。

細胞分裂が盛んなため
影響を受けやすい細胞

骨髓細胞（特に血小板・白血球）・粘膜（消化管・口腔内）・毛根・爪

Q4.どのような副作用があらわれやすい…

主な副作用について説明します。

☆骨髓抑制（白血球・血小板減少）

血液をつくる細胞が攻撃されて起こります。

白血球減少（感染しやすくなる）、血小板減少（出血しやすくなる）

☆消化器症状

消化器粘膜がただれて、吐き気や下痢、食欲不振が現れたり、脳の嘔吐中枢が刺激され嘔吐を引き起こします。

☆腎障害

☆肝障害

☆便秘

☆口内炎

☆脱毛

☆爪の変形



お薬についてのお問い合わせ、ご相談は
ご遠慮なく薬剤部へ